

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

令和3年4月1日改正
(令和3年4月1日適用)

①第三者評価機関名

NPO法人ナルク岐阜福祉調査センター

②施設・事業所情報

名称：岐阜市立網代保育所		種別：保育所	
代表者氏名：増田 八寿美		定員（利用人数）： 20人	
所在地： 岐阜市秋沢2丁目170-1			
TEL：258-239-9021		ホームページ： https://www.city.gifu.lg.jp/kosodate/hoiku/1012359/1012555/1003723/1003735.html	
【施設・事業所の概要】			
開設年月日 昭和35年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：岐阜市			
職員数	総職員数 7人		
専門職員	正規職員： 3人	任用職員	1人
	所長 1人	調理員	1人
	副所長 1人	パート職員	3人
	保育士 2人	保育士	3人
施設・設備の概要	保育室 2 倉庫 1 事務室 1 調理室 1 トイレ 1	(設備等) プール、砂場、鉄棒 総合遊具	

③理念・基本方針（※転載）

●理念

- 子どもの最善の利益を保障します。
可能性に満ちたすべての乳幼児の幸せのために、子どもの主体性を尊重し、一人一人の人権を守ります。
- 子どもにとって最もふさわしい生活の場を保障します。
すべての子どもが安心できる環境の中で、遊びを通して学びの芽を育みます。職員は、専門性や人間性を発揮し、愛情と信頼に満ちた環境の中で子どもの自己肯定感を育み、養護と教育が一体となった質の高い保育に努めます。
- 家庭援助や地域における支援を積極的に進めます。
保育所に入所している子どもの保護者とともに成長の喜びを共有し、子育てを支え

ていきます。また、地域の子育て家庭への支援にも努めます。

●基本方針

- I 子どもの発達援助
 - 生きる力の基準を育む保育・教育の推進
- II 子育て支援
 - 子育て家庭の養育力の向上
- III 地域の住民や関係機関との連携
 - 子どもを核としたよりよい地域との連携
- IV 運営管理
 - 施設運営の質の向上

の4つの柱の基本方針のもと【生涯にわたる生きる力】の育成を目標とし、「自分の力」「人とかかわる力」「身近な物や出来事とかかわる力」を育めるよう、一人一人の子どもに合わせたきめ細かな保育を実践します。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

●立地・環境

- ・網代保育所は岐阜市の北西部に位置し、里山、柿畑などに囲まれた自然豊かな地域である。草花遊びや虫探し等自然とも親しみやすく、近くに小学校もあり連携しやすい。
- ・開所は昭和35年4月である。木造瓦葺平屋建（322.12㎡）の園舎は、昭和43年の建築であるが、平成28年に耐震補強等修繕工事が施工され現在に至っている。
- ・保育室はすべて南向きで、日当たり風通しもよく、園庭との繋がりもよい。
- ・園庭のプールの周囲は芝生化され、夏にはプールで遊んだり、芝生を駆け回ったり両方を楽しむことができる。
- ・網代保育所は異年齢保育を行っている。クラスは未満児（1・2歳）りす組が8人、以上児（3・4・5歳）ぞう組が7人、合計で15人であるが、異年齢保育のメリットを十分生かした、アットホームな保育が行われている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年6月23日（契約日）～ 令和5年1月12日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	1回（平成21年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

●異年齢保育

- ・異年齢保育のメリットは、年下の子どもは年上の子どもを見て、積極的に真似をして

年上の子どもに近づきたいと思い、年上の子どもは教えたり世話をしたりする役割を担うことによって、年上としての自覚が芽生え、また年下の子どもから慕われることによって自信にも繋がることにある。

- 日常的に、異年齢の友達との関わりがあり、園全体で子どもを見守る環境ができている。
- 少人数の保育であることから、保育士の目が十分子どもたちに行き届き、子どもたちのまとまりもよく、保育室では落ち着いた雰囲気の中かで室内遊びをし、外遊びでは先生が子どもたちと一緒に駆けまわり、子どもたちも楽しそうであった。
- 年長の女兒が、トイレのスリッパを丁寧に揃えている姿は印象的であった。

●デイリープログラム

- 未満児、以上児用の2種類のデイリープログラムは、登所から降所までの、子どもたちの活動項目について、「保育士の援助・配慮事項」欄を設け、それぞれの活動について、保育士が援助したり、配慮すべき事項、実施方法が細かく記載されている。

●職員の資質・向上への取組み

- 保育士は「保育士のための自己評価チェックリスト（萌文書林）」により、7月から9月にかけて自己評価を行い、自らの保育実践を振り返り、専門性の向上や保育実践の改善に努めている。

●安心・安全な福祉サービスの提供

- ヒヤリハット報告が収集され、原因、問題点、対応、今後の対策が検討されている
- ヒヤリハット報告は月ごとに集計され、①時間帯、②誰が、③場所について円形グラフ化されている。
- ヒヤリハットの記録は、4月2件、5月4件、6月1件、7月1件、8月4件、9月1件、合計13件であった。

●お店屋さんごっこ

- 子どもたちの大好きな「お店屋さんごっこ」が開かれていた。「あじろ病院」、「あじろバンク」、食べ物にも「あじろハンバーガー」などと、「網代っ子」の意識付けがされていた。
- ここ数年、「お店屋さんごっこ」にもキャッシュレス化が進んでいるようであるが、網代保育所では、従来通り銀行からお金をおろし、1個10円で品物を買うというシステムをとっていた。品物には1個幾ら（何円）という値段があるということを経験することも意義のあることだと感じた。

●利用者満足の向上への取組み

- 保育所の行事（保護者参観・オータムフェスティバル・生活発表会）について保護者へのアンケートを実施し、アンケートの結果や意見に対し回答を文書で配布している。
- 今回の調査に際し、当調査センターは保護者全員に対し、38項目の満足度アンケート調査を実施した。アンケートの回収率は83.3%と保護者の関心は非常に高かった。
- 理念・基本方針の周知度はやや低いですが、その他の項目では95%、総合満足度は100%であった。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価受審にあたり、保育内容、マニュアル、環境構成について見直し、気づきや学びがありました。

職員会議において課題や改善点、継続すべき良い点などを明確にし学び合い、子どもたち一人一人の発達保障をするべく、地域性を取り入れた保育、保護者のニーズに合った保育を行うことを確認しました。

今後も、職員の資質向上に努めると共に、小規模保育所としての特性を生かしながら、子どもたちの最善の利益を守り、地域に根差した保育所としてさらに貢献できるように努めていきたいと思えます。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。